



沖縄・読谷村都屋漁港の概況

任意団体 LEAD-Japan API

沿岸環境モニタリング手法と住民主体型 ガバナンスモデルの開発、並びに大学連携 ネットワークによる普及～日本、タイ、フィリピン～

一般助成

2年目

調査研究

知見の共有(シンポ
ジウム等開催、参加)

2回/年間

報告書、
カリキュラム試案等
の作成

2冊・10テーマ/年間

活動の全体目標に
対する達成度

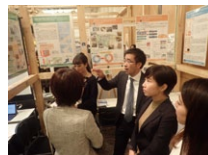
65%

課題

沖縄島はサンゴ礁域の北端に位置し、東南アジアと同じ環境を有する。「持続可能な開発目標SDGs」のローカリゼーションを行うため、陸域、沿岸域、海域で活動する。

活動内容

沿岸環境モニタリング、ガバナンスの改善、教育活動、政策提言を行う。そのため専門家チームと地元の漁業、ツーリズム産業と協力して、環境の保護に取り組む。国内(沖縄)に共通フィールドを設定すると同時に、海外(タイ、フィリピン)の知見を得る。



東京・リサーチフォーラム会場

今後の課題

- 漁協その他のSDGs関連機関との連携を深める。
- 海外の地点を選んでフィールドワークを実施する。
- 文献調査によりこれまでの経過、規約等を把握。
- 学生を含め沖縄西海岸におけるフィールドワークを継続。

成果と工夫した ポイント



成果

3か国(沖縄、タイ・プーケット、フィリピン・プエルトギャレラ)で海外機関の協力も得て、フィールドワークを実施した。沖縄については、漁協・村行政・ツーリズムと今後の協力を合意できた。

工夫

沖縄では各漁港とツーリズム施設を訪問。
タイではツーリズム、フィリピンでは海洋保護区の実態を見た。